

2019年度

No 8 10月16日

松 籟



発行者

穴水秀人

あっぱれ！日本ラグビー8強進出

台風19号の影響で、試合実施が危ぶまれましたが、予定通り10月13日（日）夜、ラグビーワールドカップ決勝トーナメント進出をかけた大一番が、横浜国際総合競技場において繰り広げられました。ラグビーのルールもろくに分からない私でさえ、こればかりはテレビ画面に釘付け状態でした。調べたところ、この試合の平均視聴率は39.2%、日本勝利の瞬間は53.7%だそうです。これは驚異的な数字だと思います。簡単に言えば、日本にあるテレビの半分以上が、日本対スコットランド戦を放映しているということです。凄い！の一言です。日本の勝利が決まった瞬間は、日本中が拍手喝采と歓喜の渦に包まれたことでしょう。

さて、これほどまでに国民を熱狂させるラグビーには、どのような魅力があるのでしょうか。みなさんは、ラグビーを観戦して何か感じることはありますか？素人ながら、私は、ラグビーという競技に人生や教育における教訓めいたものを感じます。以下に紹介したいと思います。

1つ目は、ボールの形です。なぜ球（丸）ではなく楕円形をしているのかその意図は分かりませんが、転がるボールの軌道は予測不可能で、しっかりと捕獲するまで一流選手でさえもこずる場面が時に見られます。ボールの転がり方で勝敗が左右されることもあるのではないのでしょうか。まさに、転がっているボールは、私たちの人生そのもののような気がします。吉と出るのか凶と出るのかボールにしか分かりません。でも、その行方に右往左往し悪戦苦闘しながらも、一心不乱にボールに向かっていく姿に「頑張れ！」と思わず手を合わせたくくなります。

2つ目は、「スローフォワード」というルールです。つまり、自分より前にいる選手にボールをパスしてはいけないということです。単純に考えれば、相手のゴールに向かって足の速い選手を走らせて、その選手にパスが通れば手取り早いのではと思いがちです（アメリカンフットボール的な考え）。ラグビーにおいてトライを目指すためには、敵とぶつかり合う最前線を全員で押し上げながら、自分の後ろにいるチームメイトにその気持ちを託し続けていくことが大切なのでしょう。「一人の100歩より100人の1歩」みんなで頑張る組織として目的を成し遂げようとする姿に心を動かされます。

3つ目は、何と言っても「ノーサイドの精神」です。とかく競技には、試合時間があります。特に試合終了の呼び名には、「タイムアップ」「ゲームセット」など種目によってその呼び名が違います。ラグビーは、ご存じのように「ノーサイド」です。試合は、まるで格闘技のように見えますが、勝敗に関わらず、試合が終了すれば敵味方の関係がなくなり、力の限り戦い続けたお互いを讃え合うという意味が込められています。まさに爽やかで紳士的なスポーツと言えます。「競い合う」と同時に「認め合う」ことの大切さを教えてくれています。人としてあるべき姿を垣間見ることができます。

今後、世界的スポーツとして、ラグビー人口が増えていくのではないかとおもわれますが、ラグビーに限らず、スポーツを通して人格を形成していくことも大切なことだと改めて感じました。学校の部活動もこのように在りたいと願っています